

事務事業マネージメントシート

作成日 平成29年 05月 09日

事務事業名	市ホームページ開設事業			担当	総務部 秘書課 広報広聴係			
政策名	F	市民の知恵と夢で拓くみんなのまちづくり			電話番号	83-8100		
施策名	3	開かれた市政の推進			<input type="checkbox"/>	実施計画上の主要事業		
関連個別計画	真岡市情報化計画			事業期間	<input type="checkbox"/>	単年度のみ		
法令根拠	真岡市ホームページ管理運用要綱				<input type="checkbox"/>	単年度繰返(開始年度 平成9年度~)		
予算科目	1.一般会計	2.総務費	1.総務管理費		<input type="checkbox"/>	期間限定複数年度(年度~ 年度)		
事業概要	<p>真岡市の行政情報や市のPRなどについて、情報をホームページに掲載し市内外に発信している。</p> <p>掲載にあたっては、CMS（コンテンツマネジメントシステム）により、担当課から直接ホームページの新規・更新情報を掲載している。</p> <p>平成27年4月から、ツイッター及びスマートフォン対応画面の導入を図り利便性の向上を図った。</p>							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動)	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移						
	名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
28年度実績 各課からのホームページ承認依頼を処理するとともに、ホームページのトップページの管理を行う。 また、CMSの使用方法について更に職員に周知した。	ア 更新したホームページの頁数	頁	1,400	2,100	2,463	2,542	2,618
	イ						
29年度計画 ホームページをリニューアルし、利用者が使いやすくアクセスしやすいものとする。併せて、大規模災害時における緊急情報等の発信に対応するためクラウドを導入する。	ウ						
	エ						
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 真岡市の行政情報を必要としている人	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移						
	名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
市民生活の利便性の向上と真岡市のPR強化を図る。	ア 市民の数	人	80,929	80,698	80,590	79,422	79,542
	イ						
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 市民生活の利便性の向上と真岡市のPR強化を図る。	ウ						
	エ						
④結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 開かれた市政の推進、市民生活の利便性の向上、市のPR強化	⑦成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移						
	名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
開かれた市政の推進、市民生活の利便性の向上、市のPR強化	ア 総ページビュー数	頁	2,156,811	2,307,010	2,378,809	2,445,328	2,518,000
	イ						
(2) 総事業費の推移	ウ						
	エ						
⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移							
事業費	名称	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)
財源内訳	ア ホームページにより市の情報を知った割合	%	11.4	14.1	14.4	16.6	
事業費	イ						
人件費	ウ						
	エ						
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等							
①この事務事業を開始したきっかけは何か? いつごろどんな経緯で開始されたのか?		地域情報化を推進し、教育、文化及び市民生活の向上並びに情報通信に関する知識の普及を図るために、平成9年に真岡市情報センターを開設した。情報センターの事業の一環として、行政情報や観光情報などをインターネットを利用してリアルタイムに提供する市ホームページ事業を開始した。					
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法 令等)はどう変化して いるか、開始時期ある いは5年前と比べてど う変わったのか?		平成23年度にCMS（コンテンツマネジメントシステム）を導入し、情報提供側の利便性の向上を図るとともに、平成26年度にツイッターやスマートフォン対応画面の導入を行った。 インターネット環境の普及が顕著であり、情報の即時性や内容、画面構成など市民からの要求も高くなっている。 平成29年度にホームページのリニューアルを予定している。					
③この事務事業に対し て関係者(住民、議会、 事業対象者、利害関係 者等)からどんな意見 や要望が寄せられてい るか?		市民からは、多様な行政情報が得られるとの意見がある一方、トップページのコンテンツが多く、目的とする場所にアクセスしづらいという意見もある。					

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 積極的な情報提供を図り、市民の市政参加による開かれた市政を実現するため。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市の情報を提供している。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 行政情報をホームページをとおして提供することは、市民生活の利便性の向上と開かれた市政の実現を図るために有効である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある トップメニューのコンテンツ数が増加し、ページ構成も複雑となっているため、利用者が使いやすくアクセスしやすいものとする必要がある。 また、現状では情報センターが被災してしまうとホームページの更新ができなくなることから、災害発生時にホームページを迅速に更新できるクラウドを導入する必要がある。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 行政情報の効率的な提供に支障をきたす。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 経費は人件費のみである。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ホームページの適正な管理のため必要な人件費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

（1）改革の方向性（改革案・実行計画）

廃止 見直し（：目的妥当性 ：有効性 ：効率性 ：公平性） 統合 継続
平成29年度にホームページのリニューアルを行う。

（3）改革・改善による期待成果

	コスト		
	削減	維持	増加
成果	向上		
	維持		
	低下		

（2）改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

（1）1次評価結果の客観性と出来具合 記述説明不足（説明責任不充分） 評価内容が客観性を欠く 評価内容は客観的と言える

（2）2次評価者としての評価結果

①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり

（5）改革・改善による期待成果

	コスト		
	削減	維持	増加
成果	向上		
	維持		
	低下		

（3）2次評価者として判断した今後の事業の方向性

廃止 休止 目的絞込み 目的拡充
 事業統廃合 事業のやり方改善
 予算削減 予算増大
 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

（4）その他2次評価会議で指摘された事項